

佐賀大学美術館
事業報告及び
自己点検・評価報告書
令和3年度

令和4年10月

佐賀大学
美術館

目 次

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

概 要	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 1
沿 革	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 3
組 織 図	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 4

○ 令和3年度の活動

1) 展示記録(主催)	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 6
2) 展示記録(企画申請)	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 11
3) 刊行・掲載・見学	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 20
4) 寄付	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 23
5) 新収蔵品	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 24
6) 入館者一覧表	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 25

II 自己点検・評価

- 1 令和3年度の主な活動に関する自己点検・評価
- 2 今後の課題等

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

概 要

平成 25 年 10 月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合 10 周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード（正面）をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来、国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し、存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき、60 年以上の歴史を誇り、多くの優れた美術・工芸分野の教員、作家、デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし、新生佐賀大学の 10 周年を記念する事業の一つとして、佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず、博物館や資料館ではなく、美術館が建てられた理由もそこにある。

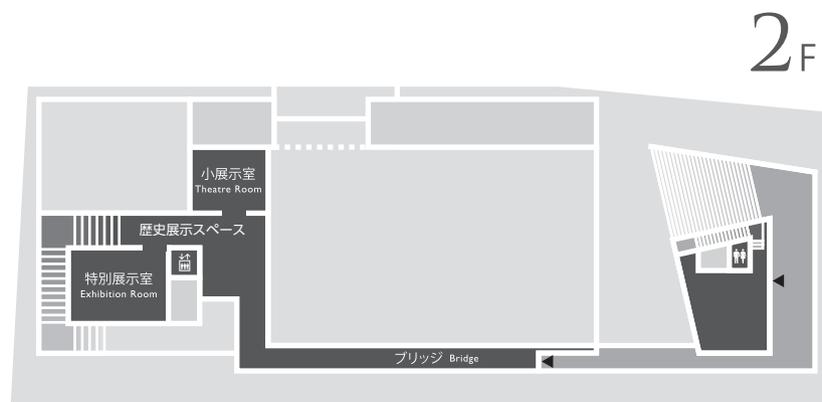
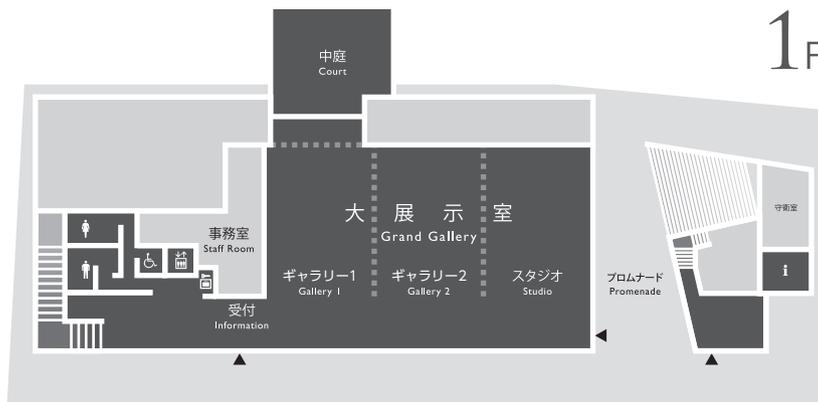
一方、佐賀大学は「COC（センター・オブ・コミュニティ）」を大学の理念として掲げている。すなわち、佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは、地域貢献にある。佐賀大学は、佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに、佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは、そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科（美術・工芸）教員養成課程以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々とともに作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1) 調査・研究 2) 資料の収集・保存・公開 3) 教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

〔館概要〕

名 称	佐賀大学美術館
所 在 地	佐賀市本庄町1番地
基本設計	佐賀大学
実施設計	(株)粹設計九州支社 [協力:(株)ワークヴィジョンズ]
監 理	佐賀大学環境施設部
施 工	建築:金子建設(株) 電気:(株)佐電工 機械:(株)九電工
構 造	鉄骨造・地上2階建
延床面積	1,502㎡
展示面積	462㎡ ギャラリー1 106㎡ ガラリー2 106㎡ スタジオ 111㎡ 特別展示室 48㎡ 小展示室 34㎡ 歴史展示スペース 57㎡
そ の 他	プロムナード 中庭 ブリッジ
設 備	トイレ 多目的トイレ ロッカー



〔沿革〕

- 2011年1月4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
6月8日 佐賀大学役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告
美術館の設置を審議・了承。同時に3WG（設置募金、利用、建設）についても報告
12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会で基本設計コンサルタント選定
2012年2月22日 佐賀大学役員会にて基本設計のイメージを説明、募金趣意書の作成を提案・了承
5月14日 基本設計納入
12月29日 美術館実施設計終了
2013年2月14日 新営工事起工式
6月26日 美術館規則、美術館運営委員会規定制定
8月30日 美術館建設工事竣工
9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
10月2日 一般公開開始
2014年10月24日 入館者5万人達成
2015年1月22日 第18回佐賀市景観賞受賞
2016年2月19日 入館者10万人達成
2018年12月8日 入館者20万人達成

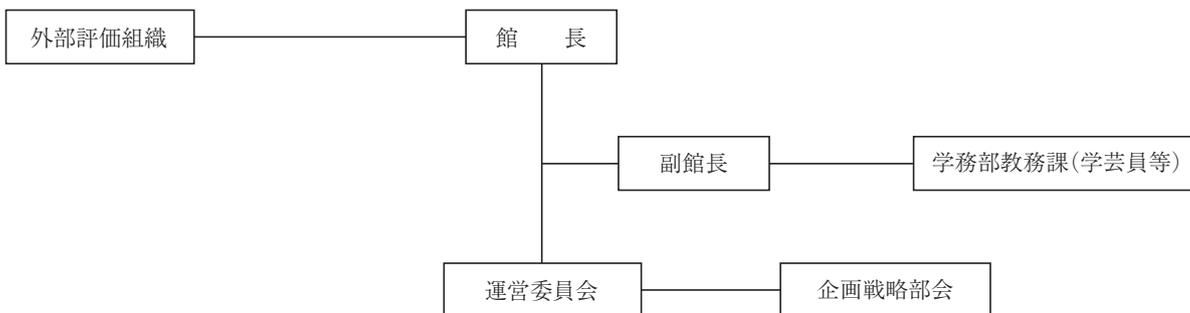
〔設立主旨〕

2013年10月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年記念事業として佐賀大学美術館は誕生しました。美術館と、併せて整備された正門エリアは、「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴するものです。美術館は、総合大学である佐賀大学の魅力を多方面に向けて、より多くの人に知っていただくための情報発信源として活用されています。

〔活動目的〕

佐賀大学が所有する資料や、美術・工芸に関連する作品を収集・保管・展示するとともに、文化芸術の新しい活動や表現を地域の方々とともに作り上げ、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していきます。

〔組織図〕



〔職員〕

館長	渡 孝 則
副館長	徳 安 和 博
係長	松 尾 和 俊
事務員(再雇用)	廣 木 昭 則
事務補佐員(学芸員)	見 藤 素 子
事務補佐員(学芸員)	川 崎 春 樹

2022年3月31日現在

〔運営委員〕

委員長(館長)	理事	渡 孝 則
副委員長	理事	山 崎 英 司
副委員長(副館長)	教授	徳 安 和 博
委員	理事	山 下 宗 利
委員	准教授	和 田 学
委員	准教授	鳥 谷 さやか
委員	准教授	谷 口 みゆき
委員	教授	坂 美奈子
委員	教授	佐 藤 和 也
委員	准教授	吉 賀 豊 司
委員	学務部長	大 西 真 次
委員	佐賀大学同窓会長	川 副 操
委員	財務部長	池 尻 英 一

2022年3月31日現在

○ 令和3年度の活動

1. 展示記録（主催）

常設展示 第1期

《展覧会概要》

2013年の開館以来、佐賀大学美術館は、佐賀大学の美術教員はじめ佐賀にゆかりのある作家達の芸術作品を収集し、現在は90点以上の作品を収蔵している。常設展では、当館のコレクションを恒常的に学生はじめ地域の方々に一般公開し、佐賀や佐賀大学における美術の様相を紹介する。

第1期では、令和2年度に新たに当館に収蔵された村岡平蔵の油彩画の寄贈作品を主に公開した。村岡は、佐賀県小城市に生まれ、中学まで小城で過ごし後上京、日展、光風会で活躍した洋画家である。

《会期》2021年4月2日（金）～6月23日（水）

《開館日数》65日間

《会場》特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《展示構成》西洋画10点

《入館者数》659人

《広報物》外看板、HP

《配布資料》目録

佐賀大学美術館常設展 第1期



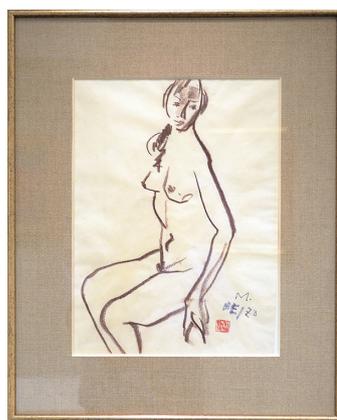
作品名	作者	分類	制作年	サイズ(mm)	寄贈者等
裸婦	村岡平蔵	油バス、油彩	不明	610×400	絵師 仲孝氏
裸婦	村岡平蔵	油バス、油彩	不明	900×610	絵師 仲孝氏
果物と野菜	村岡平蔵	油バス、油彩	不明	455×379	絵師 仲孝氏
靴に恋い	村岡平蔵	油バス、油彩	不明	530×455	絵師 仲孝氏
温泉	村岡平蔵	紙、ペン、油彩	不明	150×220	絵師 仲孝氏
裸婦スケッチ	村岡平蔵	紙、鉛筆	不明	270×355	絵師 仲孝氏
裸婦スケッチ	村岡平蔵	紙、鉛筆	不明	410×300	絵師 仲孝氏
果の果物	村岡平蔵	油バス、油彩	不明	378×456	佐賀大学蔵
遊戯舟	村岡平蔵	油バス、油彩	不明	319×409	佐賀大学蔵
スーパと沢田	村岡平蔵	油バス、油彩	昭和27(1952)年	1165×913	佐賀大学蔵

目録



出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	寄贈者等
1	村岡 平蔵	裸婦	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
2	村岡 平蔵	裸婦	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
3	村岡 平蔵	果物と野菜	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
4	村岡 平蔵	あじさい	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
5	村岡 平蔵	風景	不明	紙、ペン、油彩	綾部 伸孝 氏
6	村岡 平蔵	裸婦スケッチ	不明	紙、鉛筆	綾部 伸孝 氏
7	村岡 平蔵	裸婦スケッチ	不明	紙、鉛筆	綾部 伸孝 氏
8	村岡 平蔵	夏の果物	不明	カンバス、油彩	佐賀大学蔵
9	村岡 平蔵	西熱海	不明	カンバス、油彩	佐賀大学蔵
10	村岡 平蔵	ストーブと灰皿	昭和27 (1952) 年	カンバス、油彩	佐賀大学蔵



常設展示 第2期

《展覧会概要》

2013年の開館以来、佐賀大学美術館は、佐賀大学の美術教員はじめ佐賀にゆかりのある作家達の芸術作品を収集し、現在は90点以上の作品を収蔵している。常設展では、当館のコレクションを恒常的に学生はじめ地域の方々に一般公開し、佐賀や佐賀大学における美術の様相を紹介する。

令和2年度に新たに当館に収蔵された村岡平蔵の寄贈作品を主に公開、第2期では、村岡の収蔵展3点を入れ替えた他、陶器など2点を追加展示した。

《会期》2021年7月30日(金)～2022年3月27日(日)

《開館日数》265日間

《会場》特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《展示構成》西洋画10点、工芸品2点

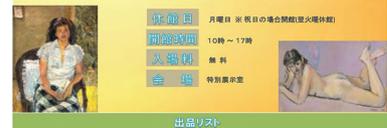
《入館者数》6,641人

《広報物》外看板、HP

《配布資料》目録

佐賀大学美術館常設展 第2期

会期 2021.7.30(金) ～ 3.27(日)

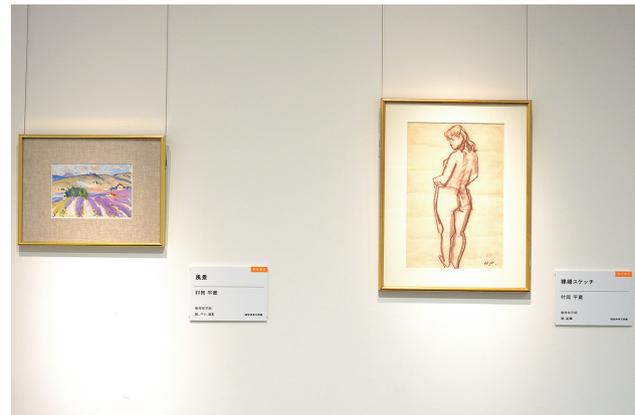


出品リスト

作品名	作者	分類	制作年	サイズ(mm)	寄贈者等
線路スケッチ	村岡平蔵	紙、鉛筆	不詳	270 × 355	絵師 仲孝氏
線路スケッチ	村岡平蔵	紙、鉛筆	不詳	410 × 300	絵師 仲孝氏
風景	村岡平蔵	紙、ペン、油彩	不詳	150 × 220	絵師 仲孝氏
線路	村岡平蔵	カンバス、油彩	不詳	900 × 610	絵師 仲孝氏
多摩	村岡平蔵	カンバス、油彩	昭和20(1945)年	900 × 1160	佐賀大学蔵
夏の日に	村岡平蔵	カンバス、油彩	昭和57(1982)年	1455 × 977	佐賀大学蔵
あこみい	村岡平蔵	カンバス、油彩	不詳	530 × 455	絵師 仲孝氏
実物と写真	村岡平蔵	カンバス、油彩	不詳	455 × 379	絵師 仲孝氏
驚いゆらぐ	村岡平蔵	カンバス、油彩	不詳	502 × 732	佐賀大学蔵
線路	村岡平蔵	カンバス、油彩	不詳	610 × 400	絵師 仲孝氏
銭形権(赤目)	豊田 徳秋	銅金(銅)	昭和41(1966)年	1027 × 243 × 243	佐賀大学蔵
鶴岡松舟並	酒 一典	陶器	昭和42(1967)年	1070 × 190 × 190	佐賀大学蔵

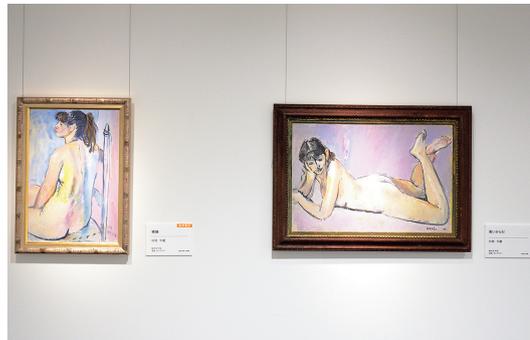
※ 令和2年度寄贈作品

目録



出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	寄贈者等
1	村岡 平蔵	裸婦	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
2	村岡 平蔵	裸婦	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
3	村岡 平蔵	果物と野菜	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
4	村岡 平蔵	あじさい	不明	カンバス、油彩	綾部 伸孝 氏
5	村岡 平蔵	風景	不明	紙、ペン、油彩	綾部 伸孝 氏
6	村岡 平蔵	裸婦スケッチ	不明	紙、鉛筆	綾部 伸孝 氏
7	村岡 平蔵	裸婦スケッチ	不明	紙、鉛筆	綾部 伸孝 氏
8	村岡 平蔵	多摩	昭和23 (1948) 年	カンバス、油彩	佐賀大学蔵
9	村岡 平蔵	若いからだ	不明	カンバス、油彩	佐賀大学蔵
10	村岡 平蔵	夏の日に	昭和57 (1982) 年	カンバス、油彩	佐賀大学蔵
11	豊田 勝秋	鍍銅瓶 (糸目)	昭和41 (1966) 年	鍍金 (銅)	佐賀大学蔵
12	瀧 一夫	萌黄釉角壺	昭和42 (1967) 年	陶器	佐賀大学蔵



活動記録

一般社団法人佐賀県観光連盟が県内観光施設・宿泊施設への誘客拡大と県内周遊観光の促進を目的とした「佐賀県×ゾンビランドサガ R デジタルスタンプラリー」キャンペーンへ参加した。

「佐賀県×ゾンビランドサガ R デジタルスタンプラリー」キャンペーン

《活動概要》

佐賀県を舞台にしたTVアニメ「ゾンビランドサガ R」とコラボした当スタンプラリーは、200スポット程の県内観光施設・宿泊施設をスタンプラリーポイントとして、複数箇所の電子スタンプを獲得することにより、抽選でアニメのグッズや県内産品等が当選するというイベントである。当館においては、来館者への広報、満足度向上のため、アニメグッズの展示コーナーもあわせてセッティングした。

《会期》2021年10月8日(金)～2022年1月31日(月)

《事業日数》93日間

《主催》一般社団法人佐賀県観光連盟

《事務総括》佐賀大学美術館事務室



佐賀大学美術館



スタンプラリースポット
開催期間: 2022年1月31日まで



2. 展示記録 (企画申請)

金子剛と三十人展

《展覧会概要》

本学卒業生である金子剛氏の60年以上にわたる創作活動が紹介され多くの後輩、教え子の作品を含めて88点の作品が展示された。

《会期》2021年7月2日(土)～7月11日(日)

《日数》9日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、特別展示室

《主催》黄美会



芸術地域デザイン学部基礎成果発表会

《展覧会概要》

佐賀大学芸術地域デザイン学部の1年生が「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」の授業で取り組んだ作品や活動の成果が展示された。

《会期》2021年8月5日(木)～8月12日(木)

《日数》7日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部



第44回二紀佐賀支部展

《展覧会概要》

毎年国立新美術館（東京都）で開催される「二紀展」の佐賀支部による支部展。100号から200号の作品が展示され、会期中に佐賀支部による作品批評会が行われた。

《会期》2021年 8月18日（水）～8月22日（日）

《日数》5日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ

《主催》二紀佐賀支部



序展

《展覧会概要》

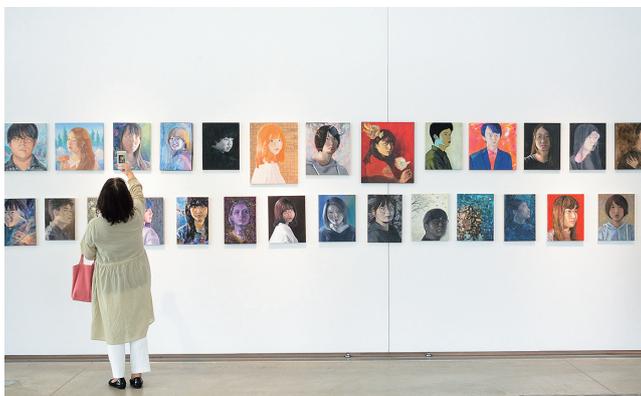
佐賀大学芸術地域デザイン学部小木曾誠准教授と西洋画専攻の学生による作品展。企画から制作、設営、告知など、学生が主体となって展覧会を開催し、50点の作品が展示され、来場者の似顔絵を描くイベントが行われた。

《会期》2021年 9月17日（金）～9月25日（土）

《日数》9日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻



ドローイング展

《展覧会概要》

佐賀大学芸術地域デザイン学部近藤恵介講師と学生によるドローイング作品の展示がされた。

《会期》2021年10月17日（日）～10月23日（土）



《日数》6日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ、小展示室、中庭

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部日本画専攻



令和3年度 JA 共済 小・中学生 第57回書道・第47回交通安全ポスターコンクール

《展覧会概要》

JA 共済が文化支援事業として毎年実施している全国規模のコンクールの入賞作品展。応募された小・中学生の書作および交通安全ポスターの中から、県内で入賞を果たした作品324点が展示された。

《会期》2021年10月28日（木）～11月5日（金）

《日数》7日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2

《主催》佐賀県内JA、JA 共済連佐賀

《後援》文部科学省、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県警察本部、佐賀県農業協同組合中央会、NHK 佐賀放送局、サガテレビ、エフエム佐賀、佐賀新聞社、日本農業新聞



きてみんしゃい! 佐賀大学へ: 鹿島錦の記録保存

《展覧会概要》

佐賀大学鹿島アートプロジェクトの研究成果が展示された。また、平板の伝承ワークショップも行われ多くの参加者があった。

《会期》2021年11月6日(土)～11月7日(日)

《日数》2日間

《会場》ギャラリー2、スタジオ

《主催》芸術地域デザイン学部

《助成》(協力) 鹿島錦保存会



璞友会展

《展覧会概要》

今年で12回目を迎えた「璞友会」の書道の作品展。佐賀県内で書を学んでいる指導者と生徒、15名が日頃の研鑽の成果を発表した。2021年度は、書作の他に立体的な作品も展示された。

《会期》2021年11月9日(火)～11月14日(日)

《日数》6日間

《会場》ギャラリー1

《主催》璞友会



温故知新～学生展の系譜～

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部3年次コア科目「地域創生フィールドワーク」では、美術・工芸を学ぶ者たちによる企画展の歩みなどを2か年計画で調査・資料収集を行っている。今回その成果をまとめ展示し、現存する歴代ポスターなども展示された。



《会期》2021年11月18日(木)～11月25日(木)

《日数》7日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》学生企画展温故知新実行委員会



第62回 佐賀県学童美術展

《展覧会概要》

佐賀県内の園児および小・中学生が授業で制作した絵画、デザイン、線描を600点程が展示された。小・中学生の学校、各地区、最後に本部の審査で特選を受賞した作品が並んだ。多くの家族連れて賑わい、2,066人の来場者を迎える展覧会となった。



《会期》2021年12月1日(水)～12月5日(日)

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀県造形教育研究会

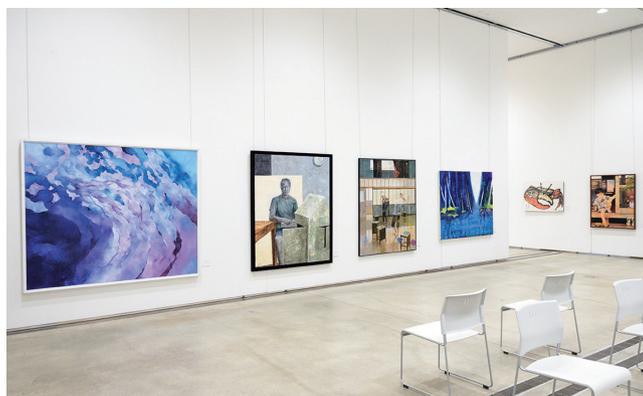
《後援》佐賀県教育委員会



第37回 佐賀県高等学校美術教師作品展
第11回 生徒授業作品展「これが高校美術だ!」

《展覧会概要》

佐賀県内の高校で美術を教える教師32名による展覧会。第37回は、絵画、彫刻、デザイン、映像メディアなど様々な素材の作品、42点が展示された。今年度も、県内高校の授業作品展「これが高校美術だ!」を併催し、今日の高等学校における美術教育の取り組みが



紹介された。

《会期》2021年12月15日（水）～12月19日（日）

《日数》5日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ

《主催》佐賀県高等学校教育研究会芸術部会美術部会



第2回環ジョウ交さ点

《展覧会概要》

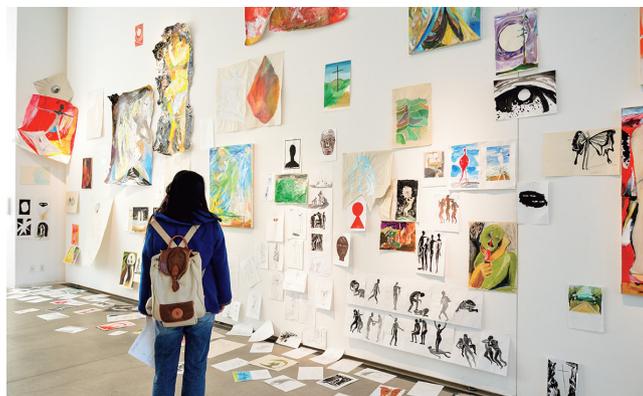
佐賀大学・東京藝術大学・情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) の三大学の学生有志による芸術交流展。昨年行われた佐賀大と藝大の交流展から、今回は新たに IAMAS が加わった形で開催された。

《会期》2021年12月24日（金）～2022年1月10日（月）

《開館日数》11日間

《会場》ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ、小展示室

《主催》環ジョウ交さ点実行委員会



はじまりー重要無形文化財保持団体展 学生企画展ー

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部3年生による1年を通して収集した重要無形文化財保持団体に関する情報・資料が展示された。

《会期》2022年1月22日(土)～1月23日(日)

《開館日数》2日間

《会場》小展示室

《主催》芸術地域デザイン学部3年次コア科目重要無形文化財保持団体秀作展企画チーム



佐賀県高等学校書道教師書作展

《展覧会概要》

佐賀県内の高校で書道を担当する教員が授業研究会の他に、年に一度の書作発表の場として開催している展覧会。教員35名による50点の書、掛軸、篆刻などの他、高校生徒臨書展の優秀作品も合わせて展示された。

《会期》2022年1月26日(水)～1月30日(日)

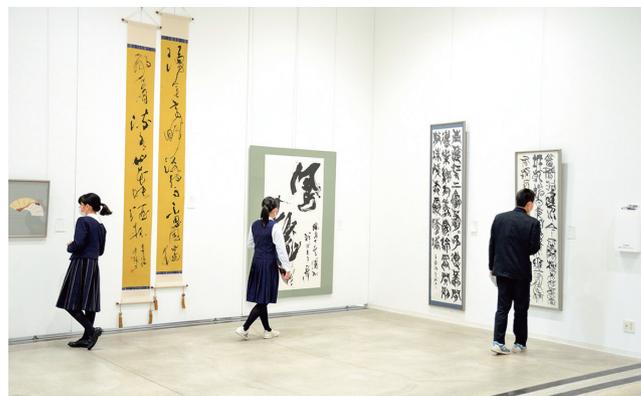
《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀県高等学校教育研究会書道部門

《共催》佐賀県高等学校文化連盟書道専門部

《後援》佐賀県書道教育連盟



2021年度佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科芸術デザインコース卒業・修了作品展

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部および文化教育学部美術・工芸課程、大学院地域デザイン研究科の学部生・大学院生による卒業・修了制作展。西洋画、日本画、視覚伝達デザイン、彫塑、有田セラミック、漆・木工、ミクストメディア、美術史・美術理論、地域コンテンツデザイン、フィールドデザイン、キュレーション分野を学んだ学生たちによる、

学生生活の集大成となる作品が展示された。

《会期》2022年2月11日（金）～2月20日（日）

《日数》9日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、旧カフェスペース

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部



第6回 児童生徒作品展

《展覧会概要》

佐賀大学教育学部附属特別支援学校が、児童生徒の授業作品や学習の様子を紹介し、広く活動を周知してもらおうとともに、展示・鑑賞を通じて児童生徒の情操の学習に取り組むため毎年催している展覧会。特別支援学校で学ぶ児童生徒による図工・美術作品、作業

製品、学習活動で制作した作品や教材が展示された。

《会期》2022年3月3日（木）～3月5日（土）

《日数》3日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀大学教育学部附属特別支援学校



佐賀大学学生書作展

《展覧会概要》

佐賀大学教育学部芸術地域デザイン学部書道同好会による卒業書作展。佐賀県書作家協会展、佐賀県書道展、県展などに積極的に取り組んできた学生の集大成となる書作と指導教官1名の賛助作品、合わせて15点が展示された。



《会期》2020年3月4日(木)～3月7日(日)

《日数》4日間

《会場》小展示室

《主催》佐賀大学書道同好会

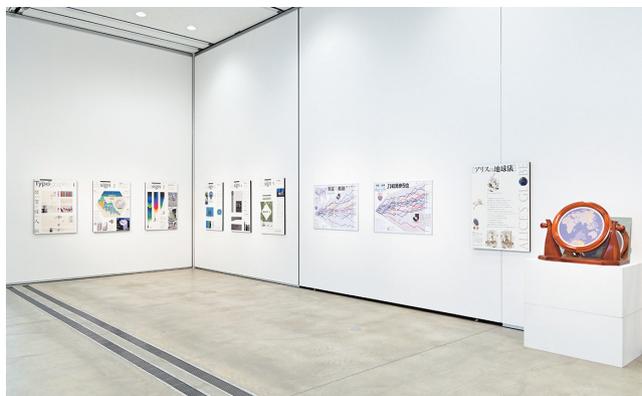


デザインの周辺 荒木博申退職記念展

《展覧会概要》

佐賀大学芸術地域デザイン学部荒木博申教授の定年退職記念展。荒木教授およびゆかりの卒業生有志の作品が展示された。

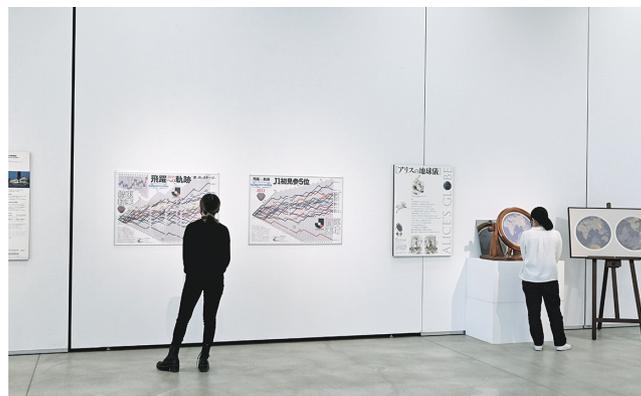
《会期》2022年3月13日(日)～3月23日(水)



《日数》8日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、旧カフェスペース、小展示室

《主催》荒木博申退職記念展実行委員会



3. 刊行・掲載・見学

〔刊行物〕

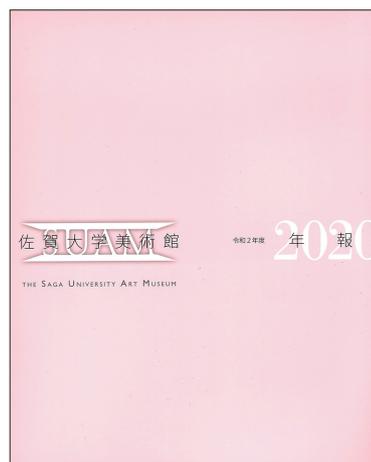
『佐賀大学美術館 令和3年度年報』

〔概要〕年報：館概要/沿革/組織図/2020年度の活動

〔仕様〕AB版 34ページ 4色刷

〔発行部数〕500部

〔発行日〕2021年7月31日



〔掲載紙・テレビ・ラジオ〕 2021年度は総数で新聞等18件、TV・ラジオ4件が掲載・放送された。

- ・繊細な裸婦、大胆な静物「村岡平蔵展」（4月13日 佐賀新聞）
- ・「鹿島錦展」「佐賀大学美術館常設展第一期村岡平蔵展」（4月20日 佐賀新聞）
- ・美術の窓 P.31「佐賀大学芸術地域デザイン学部卒業・修了制作展」（5月 佐賀新聞）
- ・「佐賀大学美術館常設展第1期 村岡平蔵展」（5月3日 佐賀新聞）
- ・「鹿島錦展」「クラフト作品展」「佐賀大学美術館常設展第1期村岡平蔵展」（5月4日 佐賀新聞）
- ・「佐賀大学美術館常設展第1期 村岡平蔵展」（5月10日 佐賀新聞）
- ・金子剛さんと教え子ら競演「三十人展」（7月6日 佐賀新聞）
- ・西洋画専攻の学生が展覧会「序（はしがき）展」（9月21日 佐賀新聞）
- ・鹿島錦の歴史、次世代に「鹿島アートプロジェクト」の成果展（11月7日 佐賀新聞）
- ・「特美」からの歩み振り返る「佐賀大学芸術地域デザイン学部の3年生の成果発表展」（11月23日 佐賀新聞）
- ・教諭と生徒らの作品展「教諭と生徒らの作品展」（12月17日 佐賀新聞）
- ・13人のあふれる個性集う「環ジョウ交さ点」（12月26日 佐賀新聞）
- ・障害者23人のアート展「がばいアーティストたち」（1月20日 毎日新聞）
- ・高校書道教師の作品一堂に「第46回佐賀県高校書道教師書作展」（1月27日 佐賀新聞）
- ・会場彩る 集大成の80点「卒業・修了制作展」（2月13日 佐賀新聞）
- ・佐大生5人、学びの集大成（2月15日 佐賀新聞）
- ・がばいアーティスト Tシャツ展「がばいアーティスト Tシャツ展」（4月1日 朝日新聞）
- ・臨書や創作 表現幅広く「佐賀大書道同好会作品展」（3月5日 佐賀新聞）
- ・「涼展」（かちかちプレス）
- ・「JA 書道・交通」（NBC ラジオ）
- ・「佐高教書作」（NBC ラジオ NHK）
- ・「佐大卒制」（かちかちプレス）

〔掲載誌〕

誌名	発行	発行日
クリム6月号	生活協同組合連合会コープ 九州事業連合	2021年6月1日

〔見学団体一覧〕 ※事前連絡および申告にて把握できた団体名称および人数。
※参加者数に引率者を含む。

期日	団体名	人数
6月17日	トライ式高等学院 佐賀キャンパス	7
7月6日	学校法人旭学園 佐賀女子高等学校	23
7月7日	学校法人旭学園 佐賀女子高等学校	11
7月7日	佐賀県立佐賀西高等学校	8
7月8日	学校法人旭学園 佐賀女子高等学校	13
12月1日	佐賀大学教育学部附属小学校	38
12月3日	佐賀大学教育学部附属小学校	73
12月8日	ゆめさが大学 基礎課程	24
1月26日	佐賀県立佐賀西高等学校	25
1月26日	佐賀県立佐賀西高等学校	24
1月26日	佐賀県立佐賀西高等学校	15
1月26日	佐賀県立佐賀北高等学校	9

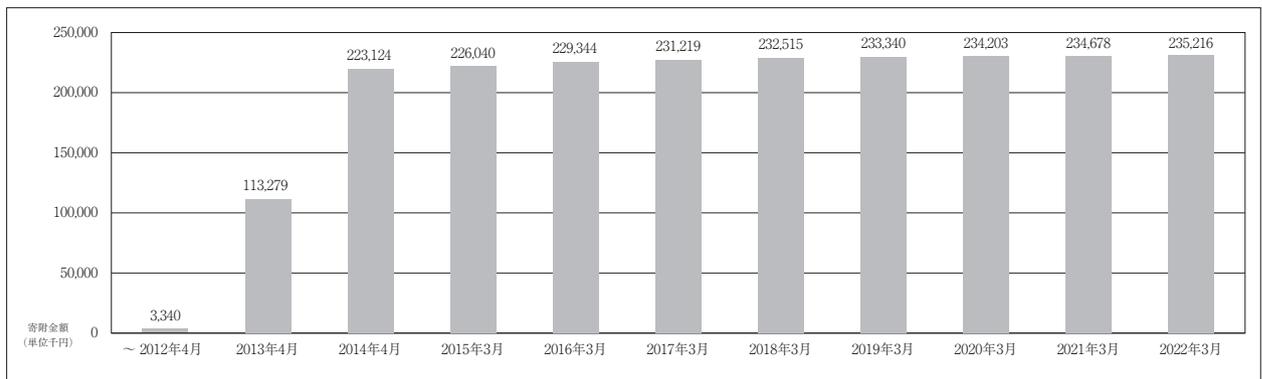
期日	団体名	人数
1月26日	佐賀県立佐賀北高等学校	12
1月26日	学校法人佐賀学園 佐賀学園高校	5
1月26日	学校法人佐賀清和学園 佐賀清和高等学校	11
1月26日	学校法人佐賀清和学園 佐賀清和高等学校	11
1月27日	学校法人佐賀清和学園 佐賀清和高等学校	16
1月27日	学校法人佐賀清和学園 佐賀清和高等学校	17
1月28日	学校法人佐賀清和学園 佐賀清和高等学校	22
1月28日	学校法人佐賀清和学園 佐賀清和高等学校	26
1月28日	佐賀県立佐賀西高等学校	22
1月28日	佐賀県立佐賀西高等学校	22
1月28日	佐賀県立佐賀北高等学校	13
1月29日	学校法人佐賀学園 佐賀学園高校	19

2021年6月17日～2022年1月29日

4. 寄附

[美術館設置募金の経緯]

- 2011年 6月 美術館設置募金 WG 設置
- 2012年 4月 美術館設置事業募金開始
- 2013年 6月 寄附者芳名帳を公開
美術館規則の制定に伴い、美術館設置募金 WG を解散
- 9月 美術館に高額寄附者銘板を設置
- 10月 美術館開館後も美術館設置事業募金を継続
- 2022年 3月 募金総額235,216,099円 (2021年 3月31日現在)



5. 新収蔵作品

令和3年度に佐賀大学の所蔵となった物品の内、佐賀大学美術館が保管もしくは管理する作品。

収蔵年	作家名	作家名_E	作品名	作品名_E	分類	制作年	寸法_mm	素材	寄贈者
2021	金子 剛	KANEKO, Tuyoshi	裸の子供	Naked child	西洋画	1962	F 60 (1300×950)	カンバス、油彩	金子 剛
2021	金子 剛	KANEKO, Tuyoshi	小鳥と少女	Bird and girl	西洋画	1984	F 100 (1760×1450)	カンバス、油彩	金子 剛



金子 剛〈裸の子供〉



金子 剛〈小鳥と少女〉

6. 入館者一覧表

※数値に重複あり

展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
常設展第1期	659	4月2日-6月23日	65	佐賀大学美術館	特別展示室
金子剛と三十人展	2,685	7月2日-7月11日	9	黄美会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、特別展示室、小展示室
常設展第2期	6,641	7月30日-3月27日	265	佐賀大学美術館	特別展示室
芸術地域デザイン学部共通基礎成果発表会	1,041	8月5日-8月12日	7	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第44回二紀佐賀支部展	578	8月18日-8月22日	5	二紀佐賀支部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
序展	1,050	9月17日-9月26日	9	佐賀大学芸術地域デザイン学部 西洋画専攻	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
ドローイング展	433	10月17日-10月23日	6	佐賀大学芸術地域デザイン学部 日本画専攻	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、特別展示室、小展示室、中庭、プロムナード
令和3年JA共済小・中学生第57回書道・第47回交通安全ポスターコンクール入賞作品展示会	1,224	10月28日-11月4日	7	全国共済農業協同組合連合会 佐賀県本部 (JA共済連 佐賀)	ギャラリー1、ギャラリー2
きてみんしゃい! 佐賀大学へ:鹿島錦の記録保存	396	11月6日-11月7日	2	芸術地域デザイン学部	ギャラリー2、スタジオ
環友会展	287	11月9日-11月14日	6	環友会	ギャラリー1
温故知新～学生展の系譜～	513	11月18日-11月25日	7	学生企画展温故知新実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2
第62回 佐賀県学童美術展	2,066	12月1日-12月5日	5	佐賀県学童美術展	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第37回佐賀県高等学校美術教師作品展及び第11回生徒授業作品展「これが美術だ!」	479	12月15日-12月19日	5	佐賀県高等学校教育研究会 芸術・美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
環ジョウ交差点	786	12月24日-1月10日	11	環ジョウ交差点実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、中庭・プロムナード
はじまり-重要無形文化財保持団体展 学生企画展-	192	1月22日-1月23日	2	芸術地域デザイン学部3年次コア科目重要無形文化財保持団体秀作展企画チーム	小展示室
佐賀県高等学校書道教師書作展	868	1月26日-1月30日	5	佐賀県高等学校教育研究会 書道部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
2021年度 佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科芸術デザインコース 卒業・修了作品展	1,668	2月11日-2月20日	9	芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、旧カフェスペース
第6回児童生徒作品展	271	3月3日-3月5日	3	附属特別支援学校	ギャラリー1、ギャラリー2
佐賀大学 学生書作展	369	3月3日-3月6日	4	佐賀大学書道同好会	小展示室
デザインの周辺 荒木博申退職記念展	1,000	3月13日-3月21日	8	荒木博申退職記念展実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、旧カフェスペース

令和3年4月1日～令和4年3月31日

[年度別入場者実績]

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27,167	0	125
平成26年度	40,780	2,652	254
平成27年度	37,965	0	281
平成28年度	38,474	0	291
平成29年度	34,718	0	285
平成30年度	31,883	0	273
平成31年度	30,698	0	280
令和2年度	13,929	0	140
令和3年度	17,459	0	271

Ⅱ 自己点検・評価

令和3年度までの美術館運営の特徴について

当美術館は平成25年度10月に新制佐賀大学(旧佐賀大学と佐賀医科大学統合による)10周年を記念して開館した。国内で初の国立総合大学に附属する美術館であり、様々な展示事業を通じて大学の情報や教育・研究の成果を発信するとともに、地域のコミュニティセンターとして市民の方からも気軽に大学に足を運んでもらうきっかけとなることを目指している。

この目的のために大学内の施設ながら常時一般公開し、また、市民団体にも活動の場を提供しながら年間を通して開館している。オープンから令和3年度末までの8年半に187本の事業が行われ、約27万3千人の入館者があった。来館者の層は学生や教職員など大学関係者にとどまらず、市民の一般観覧、近隣小中高校からの団体見学など幅広い。所在地の人口に対する入館者の割合で見ると他の大学博物館・美術館では高いところでも3%台(平成27年度本学アンケート調査)だが、当館は平均して約13%と利用率が非常に高くなっている。この数値は「開かれた大学」を象徴する施設としての存在意義を示すと同時に、芸術活動が日常にとけ込んでいる佐賀の文化風土に由来する当館の大きな特長である。

このような市民を含めた利用率の高さや、「特美」に由来する美術・工芸教育の伝統と質、芸術と他領域を結びつける総合大学ならではの学際的な試み、佐賀の文化・芸術の紹介等を、卒業生を含む周囲の関係者との緊密な協力関係のもとに実施できることは当館の強みとなっている。

なお、令和3年度も新型コロナウイルスによる影響は小さいとは言えず、全体として美術館・博物館の閉館、あるいは展覧会の中止や延期はなくなりつつあるものの、大幅に減少した来館者は引き続いて戻りきれていないのが現状である。当館においても、新型コロナ前は例年3万人を超えていた来館者数は、2年連続で2万人を下回っている。また、当館はその他にも運営上の課題等を抱えており、そのような現況下も踏まえながら、開館9年目を迎えた令和3年度の主な活動について報告し、項を改めて今後の課題について検討したい。

1. 令和3年度の活動の概略

令和3年度は、佐賀大学美術館が開館してから8周年を迎えた年であった。主催展として、前年度寄贈いただいた小城市出身の西洋画家 村上平蔵氏の絵画を軸に特別展示室において「常設展 第1期」及び「常設展 第2期」を開催した。

常設展は、年度当初からほぼ1年を通して開催し、会期中は7,300人の方々に観覧いただいた。

その他の活動としては、当館の広報、満足度向上の一環として一般社団法人佐賀県観光連盟が県内施設等への誘客拡大、観光促進を目的として実施している「佐賀県×ゾンビランドサガスタンプラリー」キャンペーンへ昨年に引き続き参加し、新たなステークホルダーの獲得に努めた。

以上の取組等により、令和3年度の入館者数は、17,459人となり例年の6割弱の入館者数ではあるが、前年度を約3,500人上回ることができた。

企画申請事業を主催する学内外の団体に対しての使用料は、令和3年度は6件、463千

円となった。昨年度と比して収入額は106千円ほど増加、光熱水料相当額の振替額は137千円であった。その結果、収入総額は599千円となり前年度の442千円から157千円の増加となっており、企画申請事業に伴う収入面では新型コロナウイルスの影響が多少ではあるが減少傾向にあることが伺える。

(1) 美術館主催事業

大学の所蔵品を広く一般の方へ公開するため、前年度の収蔵品を軸とした常設展を開催した。

- ① 「常設展 第1期」では、小城市出身の西洋画家 村上平蔵氏の新収蔵品7点を含む絵画10点を展示した。
- ② 「常設展 第2期」では、村上平蔵氏の収蔵品3点を展示替え、他 瀧一夫氏の陶器等2点を紹介した。

(2) 企画申請事業

- ① 学内利用に関しては、本学の教職員全員にメールを配信し、教育研究の成果発表や授業の一環としての展示室利用について企画を受付けることを教職員にも公平に周知している。

令和3年度における学部・学生による作品の展示としては、芸術地域デザイン学部主催による「芸術地域デザイン学部基礎成果発表会」、同学部西洋画専攻による「序展」、同学部3年生による「温故知新～学生展の系譜～」、「はじまり-重要無形文化財保持団体展 学生企画展-」、同学部及び地域デザイン研究科による「佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科デザインコース卒業・修了制作展」、さらに芸術地域デザイン学部荒木博申教授の定年退職記念展「デザインの周辺 荒木博申退職記念展」などが開催された。

- ② 学外からの企画申請は、美術館ホームページにて周知した。主な学外者の事業としては、本学卒業生である金子剛氏の60年以上にわたる創作活動及び後輩・教え子の作品が展示された「金子剛と三十人展」、JA主催の小・中学生ポスター・書道コンクール展、佐賀県造形教育研究会による学童美術展、佐賀県高等学校教育研究会芸術部会による高等学校美術教師作品展、佐賀県高等学校教育研究会書道部門による高校書道教師作品展などの他、佐賀大学・東京藝術大学・情報科学学術大学院大学の三大学学生有志による芸術交流展「第2回環ジョウ交差点」など多彩な展覧会が開催され、地域の文化活動の発表の場所としての役割を担うことができた。

(3) 刊行物の発行

令和3年度は、令和2年度の事業活動をまとめた「佐賀大学美術館令和2年度年報」を発行した。

(4) 掲載紙・テレビ取材等

当館で開催される事業の広報については、当館ホームページ、メール、記者会見などで逐次情報を提供することで費用のかからない広報宣伝と事業の報告に努めている。令和3年度にメディアでの掲載・放映は、新聞等18件、テレビ・ラジオ4件が取り上げられた。

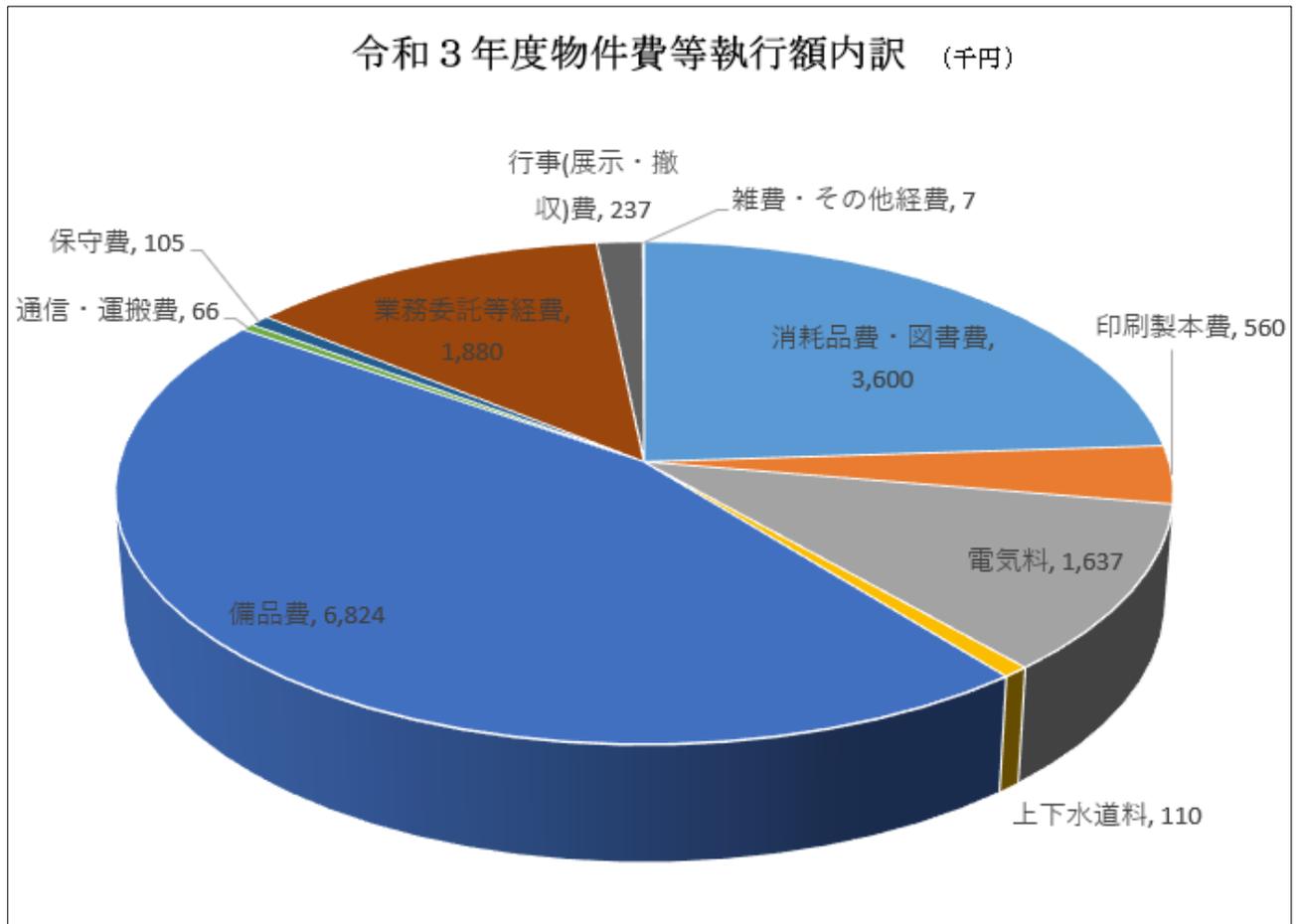
また見学団体・視察等は、県内高等学校を中心にのべ24団体、466人の来館者を迎えた。

(5) 資料収集・保存

平成 26 年度より寄贈作品の受け入れを開始，令和 3 年度は金子剛氏の絵画 2 点の寄贈を受けた。

(6) 運営費の執行状況

令和 3 年度に美術館運営のために執行した経費の額は，非常勤職員（学生等アルバイト等を含む。）人件費等 2,632 千円，物件費等 15,026 千円（内訳は以下のとおり），計 17,658 千円であった。



2. 今後の課題等

大学美術館としての理念に基づく展示企画，作品収集・保存の状況，館運営などのバランスの中で年間スケジュールを構成してきた。開館から 8 年が過ぎ，大学及び学生，そして地域社会に資するような活動についても実績を積んできた。一方で，今後も継続的に美術館を運営するためには，常に課題の所在を念頭に置きつつ多方面と問題を共有し，助言・協力を仰ぎつつ，実現できるところから順次取り組みを進めていく必要がある。

(1) 美術館の運営費等

開館以来，美術館の運営費の継続的な確保は最大の課題となっている。寄附募集は継続しているが，寄附件数・金額とも減少しており，大幅な改善は見込めず，法人からの予算措置により運営している。

このような状況の下、安定した運営費の確保に資するため、平成26年度以降、施設使用者に対して光熱水費の実費を、さらに平成27年度からは学外者については展示室使用料を徴収している。令和3年度におけるこれらの収入は599千円となり、令和2年度の年間約442千円からは156千円の増額となっている。新型コロナが及ぼした社会的、経済的なマイナスの要因は以前残っているものの、経年的視点では安定した収入となっていることも事実である。（表1）

また、平成28年度以降主催展事業費確保のため、独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金助成金の地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）に要望書を提出し助成金を獲得している。（表2）

しかしながら、後述の課題ともなっている学芸員不在の状況により企画展を開催することができなかつたため、当年度の助成金申請は見送っている。

（表1）美術館貸付料収入等の推移（平成26年度～令和2年度）

単位：円

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31・令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額								
現金等収入			13	349,252	10	401,800	9	564,000	12	634,000	7	799,000	3	357,000	6	462,500
学内予算振替	8	515,601	8	137,385	10	256,999	10	172,119	13	206,171	8	137,963	7	85,312	8	136,737
計	8	515,601	21	486,637	20	658,799	19	736,119	25	840,171	15	936,963	10	442,312	14	599,237
前年度差引増減(Δ)額		-		△28,964		172,162		77,320		104,052		96,792		△494,651		156,925

（表2）助成金収入等の推移（平成28年度～令和3年度）

単位：円

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31・令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
芸術文化振興基金助成金	1	1,353,000	1	1,130,000	1	858,000	1	720,000	1	1,014,000	-	-

（2）美術館活動と学芸員

令和2年度は、正規事務職員1人、再雇用職員1人、及び非常勤職員(学芸員:パートタイム)3人体制で活動してきたが、令和3年度は、学芸員の退職者補充ができなかつたため実質ほぼ1年間学芸員不在の状況が続いた。このことは、主催展の企画・運営、外部申請企画展への対応、学生の実習サポートの他、本来的に学芸員が専門性をもってあたるべき職務への影響が不可避であった。

学芸員の処遇改善のためフルタイム職員での募集を行った結果、令和3年3月より、2名(1名はパートタイム)を採用することができた。しかしながら必要な学芸員の確保、及び健全な美術館活動の実現のためには、さらなる処遇の改善を行い、安定した学芸員の雇用を実現することが重要な喫緊の課題である。

（3）10周年記念事業の開催

佐賀大学美術館は、2013年10月に開館以来2023年同月をもって10周年となる。芸術地域デザイン学部や学内各学部等と連携を図り記念事業の実施へ向けた準備を行う。